

## 年頭のご挨拶



理事長 小山 眞

新年あけましておめでとうございます。

昨年は元号が平成から令和に変わるという大きな出来事がありました。本年も皆様方にとって素晴らしい年となりますように、また争いのない平和で穏やかな日々となりますよう、心より祈念申し上げます。

2018年11月にグループホーム（カサ・セイゾ）を開所して、早いもので1年余が過ぎ、今は入所している人たちも、日に日に慣れて楽しく生活しております。そして、毎日仕事にも励んでいるようでひと安心です。今後も1棟、2棟と増やして開設できましたなら、ますます、利用者さんや社会の福祉に役立つできるものと考えて、一層努力してまいりたいと思っています。



昨年6月27～28日の2日間、法人の職員研修旅行で北海道「べてるの家」を見学、素晴らしい研修をさせていただきました。今後に生かしていきたいと思えます。

10月21～22日には、日本三景の松島に利用者の方々とともにバス1台満席で、楽しい1泊旅行をしてきました。

また、昨年はじめての試みとして、祝日出勤でレクリエーションの企画を「プライム・ハッピーデー」と称し、バーベキューなどを楽しく行い、親交を深めました。（おなかも満腹ハッピーでした！！）

令和2年の目標としましては、引き続きグループホームの新設と地域活動支援センターアロマの就労継続支援B型事業への移行をめざします。

一人一人が生活の一層の向上と心の安寧をめざし、社会の一員として役立つ日々を過ごせますよう、法人職員が研鑽を重ね、皆様とともに一丸となって活動していきたいと考えております。本年も引き続き、ご指導とご支援のお願いを申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



目次	
施設あれこれ	2～5
ありがとうメッセージ	5
プライムハッピーデー	6, 7
バスハイク・旅行	8, 9
研修報告	10, 11
編集後記 他	12
会計報告	別添

令和2年1月

# カサ・セレゾが1年経過して

共同生活援助 カサ・セレゾ 管理者 野崎 雄司

昨年の今頃「カサ・セレゾが開所して」と題して原稿を書いてから早いものでもう一年が経ってしまいました。一年も経つと慣れてきた頃かと思われがちですが、毎日違う日々を過ごしており、学ぶことの多い毎日を過ごさせて頂いています。

昨年との違いを紹介させて頂くとすれば、昨年の今頃の入居者は2名でしたが、今は7名に増えており、用意する食事の量などはもちろんですが、すべてのことが多くなったと思います。それぞれ違う生活をしてきた人が増えた分、生活感の違いに戸惑うことも多くありますが、今はみんなカサ・セレゾという共通の場所で生活をしているというのは面白いものです。入居している方の年齢も様々で、20代後半から60代（レスパイトの方は70代）までとバラバラのため、生きてきた時代の違いというのが正しいのか分かりませんが、考え方や感じ方も様々です。グループホームのことをサービス名では共同生活援助といますが、カサ・セレゾでの共同生活とは同じ建物の中で生活し、夕食などで顔を合わせるご近所さんであり、ある意味で仲間なのかもしれません。ただ、基本的に管理の無い自分らしい暮らしをして欲しいと思っているため、1人暮らしに近い生活をして欲しいとも思っています。



ある日の夕食①

一年間勤めて思うこととして、毎日一人ひとりに色々なことがあり、上手くいった、いかないや体調の善し悪しで大変になってしまうことも時にありますが、それでも変わらずにそこに居て良い場所がカサ・セレゾなんだと思います。この一年間を通じて苦楽を共にしたとまでは言えないかもしれませんが、一緒に時間を過ごすことでお互いを知り、カサ・セレゾでの人間関係が出来てきたように思います。思い返すと一緒に悩んだり笑いがあったりで忙しい毎日を送っていましたが、それがあったために絆が出来始めたようにも思います。

今後、次のグループホームの開所に向けて動き始めると生活に少し変化が起きてしまい、入居している皆さんに心配をかけてしまわないかと考えていましたが、食事の時にお互いに気遣いをして助け合う姿を見ると考えすぎている自分に気付かされます。きっと大丈夫なんだろうなと思えるようになったのは信頼関係が出来てきたからなのかもしれませんね。個性が際立つ生活の場ではありますが、これからもカサ・セレゾという共通の場所で同じ時間を大切に過ごしていき、来年も変わらずに今の関係を続けていきたいと思っています。



ある日の夕食②

## 相談支援専門員ってどんな人？

相談支援事業所 シンシア 管理者 飯田 エミ子

相談支援の研修で「相談支援専門員はただサービス等利用計画を作るだけの人ではありません。」とよく言われます。確かにその通り。でも追われていることは確か毎日です。

それでは、どんな人？と考えてみると、まず「聴く人」です。ここがスタートであり、本業であると言えるかもしれません。相談にきた人のお話を聴く、家族・支援者の声を聴く。「聞く」ではなく「聴く」が大切ということを忘れず、ちゃんと「聴く人」でなければと、反省と自戒をこめて思います。

「待つ人」でもあります。連絡を待つ、元気になるのを待つ、気持ちが落ち着くまで待つ、「やってみよう」と思うのを待つ、通所先に来るのを待つ、少しずつ変化していくのを待つ……。ようやくその時が来ると心からホッとしたり、うれしかったり。「諦めない（諦めたくない？）人」とも言えるかな。（しつこいなあって思っている人、ごめんなさい）

昨年度からシンシアは市の委託相談支援事業所になり、一般からのご相談も増えました。私の担当件数も法人内の利用者さんより外部の利用者さんの方が大幅に多くなりました。それに伴って法人の事業所以外の様々な関係機関・様々な職種 of 支援者の皆さんとの関わりも増えました。そこで「つなぐ人」であるということを含めて今まで以上に思うのです。利用者さんと通所先・様々なサービスとをつなぐ、地域とつなぐ、新しい居場所・仲間とつなぐ・・・そのことで、昨日までの不安・心配がほんの少しでも軽くなってくれるといいな、今までとはちょっと違う新しい生活へとつながったらいいな、その先で将来への希望につなぐことができたらいいなと思います。そして、いつか利用者さんと一緒に「よかったね」と笑える人になりたい。

さて、相談支援専門員は一人では何もできません。私たち自身がきちんと利用者の皆さん、ご家族、いろいろな関係機関、支援者の皆さん、地域の皆さんとちゃんとつながっていかなくては「相談支援」は成り立っていきません。

どうぞ、皆様これからも相談支援事業所シンシアをよろしくお願ひいたします。

シンシアは、

**Sincere** (英) から名付けました。相談支援専門員はその名のとおり、いつでも**誠実に**相談をお受けするよう心がけています。



## 京ヶ島長寿センター売店のこと

さーくる生活支援員

八木 佳織

さーくるは去年の4月から京ヶ島長寿センター売店のお仕事を始めました。

毎週水曜日、11:30~12:30の1時間、仕入れをしたサンドウィッチ、まんじゅう・お弁当類・牛乳・飲料・お菓子などを販売しています。

京ヶ島長寿センターの売店のお仕事のお話をいただいたのは去年の2月頃でした。さーくるは施

設の外に出て、販売のお仕事をするのは初めてだったので、いつ？誰が？何を売る？・・・と漠然とした考えからのスタートでした。さーくるでもいろいろなことを検討し、意見を頂き、4月のオープンに向けて準備を進めていきました。先駆けて、岩鼻の長寿センターの売店のお仕事を始めていたすまいる柴崎にお世話になり、岩鼻の長寿センターに1日研修に行き、接客や仕入れや発注の仕方を教わりました。何度か京ヶ島長寿センターに足を運び、実際に販売する場所の確認や清掃も行いました。着々と準備が進んでいく中、高崎市から営業許可を取得するようお願いされ、急ぎょ販売許可を得るために急ピッチで書類を準備し提出し営業開始の前日に、保健所の現地調査に入って頂き、無事に4月4日オープンを迎えることができました。

発注や仕入れで、すまいる京目・柴崎の職員さんたちにも協力して頂いています。お陰で販売することができています。本当に感謝しています。

週に1回、1時間程度の売店ですが、顔なじみになると仲良く話して下さる人も増えていきます。私たちが到着する前から待っていてくださり、とても暖かい雰囲気です。私たちが来ることを楽しみにしてくださっているのはとても励みになります。

一緒に仕事に行く利用者さんも初めは緊張して、接客や電卓での計算を心配していましたが、段々と自然にお年寄りの方と会話ができるようになり、人との関わりの中で大きく成長していると感じています。今までは清掃や除草の作業が多かったが、売店は直接人と関わるお仕事。お客さんから強く言われることもあります。それも経験だと思い受け止めています。

人間相手の仕事って難しいなあ・・・と感じる毎日ですが、私は人と関わる仕事が好きです。今年も楽しく、ステキな1年になりますように♪

# すまいる京目の日常

すまいる(京目)生活支援員 我妻 彩

朝、すまいる京目に着くと私はとても清々しい気持ちになります。

「おはようございます。」

すれ違う人、皆が気持ちのいい挨拶を当たり前してくれます。些細な事ですが、私はこの瞬間がとても好きで大切にしています。利用者さんにも同じような気持ちになってもらえるように、私自身も挨拶に関しては一切手を抜きません。この先もずっと変わらぬ気持ちで続けていきたいと思っています。

さて、作業の話になりますが、就労支援B型の毎日はとても忙しく慌ただしい毎日です。施設外作業や厨房からの委託作業に加え、請負のネジの袋入れ、電球検査、Vバネ、封入、メクボール、最近は新しく始めたのり製品の作業。常に納期に迫られているように感じます。時々作業に追われ、「もう駄目だ…間に合わないよ〜！」と心の中で叫ぶ時がありますが、不思議なことにみるみる作業が片付いていきます。職員の力ではなく利用者さんの力あればこそ心から思います。皆一人一人が自分の力を精一杯出しているのです。私ができることは利用者さんの適材適所を把握し、より効率よく作業が回るように考えるだけです。

もう一つすごいなと思うことを紹介します。大抵の利用者さんは5分前行動をします。人によっては10分前行動の方もいます。しっかり休むことも大切だとは思いますが、それ以上に作業に取り組もうという前向きな姿勢に感動します。見習わなければいけませんね。

今日も明日も明後日も、いつまでも利用者の方々が安心してすまいるに通い、その方の力を最大限に引き出せるように支援していくことが私の務めであるとしています。

これからも一緒に頑張りましょう。今年もよろしくお祈りします。



# 岩鼻長寿センター売店の今

すまいる(柴崎)生活支援員 内山 由美子

2018年7月2日に売店オープン後、お年寄りの声に耳を傾け、うどんの硬さ、汁の濃さ、物の言い方などお客様であるお年寄りに寄りそえるよう、メンバー、職員個々に努力をしてきました。今では、『うどん、そば美味しいよ』と言ってもらえるようになり、ニコニコする毎日です。

日々の中で、大きな変化はこれと言ってありませんが、お年寄りの方からまた、事務所の人達までが、『今日もよろしくね』と私達より先に声掛けてくれる様になりました。ありがたいですね。



メンバーの一人で『レジに嫌われているみたいです』と言うAさんは厨房に入りうどん、そば作りをするようになってから生き生きと働いています。ただ冬になると不調になるので休みがちになるのが不安ですとも言っていますが、今の所お年寄りの声掛けが彼女の力になっているのか、毎日来ることができています。

Bさんは、レジ打ちを間違えることなくしっかりとお客様と向き合っています。また、最後の計算後も間違えていないかを確認する程、しっかり者です。

Cさんは、いなり寿司を作るのがとても上手で、出来上がりが綺麗です。お客様とのやり取りもうまく誰とでも話ができ、にこやかに話す姿は心和ませてくれます。

Dさんは、去年は不調になり売店に来られない時期もありましたが、今では少しずつ来られるようになっていきます。売店に来られた日はレジ打ちと厨房の両方を自信を持ってのびのびと働いています。

私達の様子を毎日見ているお年寄りの方々は、うどん、そばを買う側、売る側だけでなく『大丈夫かい、出来るかい、』『ほら、体操行くよ。』『今日も頑張りな。』と声掛けてくれます。

売り上げはもちろんですが、皆さまに感謝しつつ、ますます愛される売店作りをしていきたいと思っています。今後とも宜しくお祈り致します。

## 星に語りて ～Storry Sky～ を鑑賞して

すまいる目標工賃達成支援員 岡本 幸子



2011年3月11日に起きた「東日本大震災」に遭った障がい者の方々の体験映画でした。

映画の中で、障がい者が経験したことは、避難所に行ったが日常と違う環境に適應できない、わがままと言われる、どうしていいのかわからないために受け入れてもらえない、一度は避難所に行くが家に戻る。また、どのぐらいの人が被害に遭ったか被害人数の確認さえできていないということが描かれています。

映画を見ながら普段から地域との繋がりは大切だと感じました。地域の多くの方々が障がい者の特徴を知り理解があれば、災害時避難所での対応が違ったのではないかと思います。普段から多くの人にいろんな形で障がい者に関心を持ってもらえると良いな、と思いました。避難所に言っても自分の家に戻ってしまったというのは、障がい者だけでなく、高齢者、一般家庭の人達も多くいると、災害後のニュースや特集番組でも報道されています。

私自身が災害についてしっかり考えたことがなく、避難場所を知っている、備蓄品の水や非常食が多少あるぐらいで、ほとんど備えているとは言えません。今は災害についていろんな情報資料があるので少しでも勉強して何かあった時、近くの人役に立てれば良いなと思いました。

## 就職した人、これから就職する人達へ

すまいる就労支援員 倉澤 照子

平成31年1月から令和元年12月まで、就労移行から3人の人が就職しました。官庁関係に2人、サービス業に1人就職して現在も元気に働いています。会社訪問をすると、すまいるにいた頃より明るく自然な笑顔で仕事をしている姿を見ると嬉しくなります。官庁関係に就職した人達は「チャレンジ雇用」を利用しました。チャレンジ雇用は各省庁・自治体での採用で期間が定められた非常勤職員になります。一年契約で期間は1～3年程度で業務経験をして一般企業につなげる制度です。配属された場所により仕事は異なりますが事務補助、軽作業を行います。働いた経験を生かして一般企業へ就職したり、自治体の障害者枠の採用試験を受けて正規雇用へつながる人もいます。

就職に必要な事は各自それぞれに課題はあると思いますが、就職する人達に山本さんが話す「郷に入っては郷に従え」は大切な事だと思います。前の職場と比較されたら新しい職場の人は良い気持ちにはなれません。新しい職場のルール、やり方に馴染めることが長く働く秘訣でしょうか(^-^) 私も事あるごとに「郷に入っては郷に従え」を心の中で繰り返して仕事をしています。

## …ありがとうメッセージ…

- 「ボランティア」のみなさま
- 「NPO 法人三松会」さま
- 「高島屋・一粒のぶどう基金」さま
- 「イオンクレジット」さま
- 「イオン高崎黄色いレシートキャンペーン」さま



今年もたくさんのご厚意をいただきありがとうございました。  
社会福祉法人プライム一同、心より御礼申し上げます。

# プライムハッピーデー 始まる

すまいるサービス管理責任者 三浦 恵

2019年は平成から令和に変わるために、ゴールデンウィークが10連休になった。10月には即位の礼もありその分休みが多くなった。利用者さんから10日も休みがあってどうしようと言う声が聞かれた。職員からも、いつもは弁当や施設外作業等があってゆったりみんなで行事をするのが難しい、1泊旅行もそういう時ならやりやすいのではないかとの声が上がった。そこで、4月30日・5月1・2日と、10月21・22日を「プライムハッピーデー」と名付け開所することとした。10月のことは他に筆を譲ることとして、私は1回目のハッピーデーについて書きたいと思う。

4月30日と5月2日は各事業所独自のプログラム、5月1日は合同でバーベキューをすることになった。すまいる京目では、1日目はカレーランチ、3日目はサンドイッチバイキングを行った。

利用者、職員共に、群馬の森に行く人、当日の食事を作る人、翌日の準備をする人に分かれて楽しんだ。群馬の森では、歴史博物館で「大新田氏展」、近代美術館では「くまのパティントン展」を鑑賞した。1日目、2日目の調理は、普段担当しないB型の利用者が行った。サンドイッチは移行の利用者が手際よく準備してくれた。ハム・チーズ・玉子・トマト・きゅうり・レタス。生クリームにフルーツ・あんバター。好きな具を入れて、別腹とつぶやきながら甘いサンドイッチを頬張った。ドリップしたコーヒーもおいしかった。夢中で食べすぎて、食べかけの写真しか撮れなかったほどだ。

2日目のバーベキューは、利用者・職員総勢62名、京目の庭で開催された。せっかくだからおいしい肉が食べたいと、柴崎近くの肉屋まで買い出しに出かけた。魚介もいいねとコストコまで半身の鮭を買いに行った。主食は、おにぎりと焼きそば。みんな食べきれないほどたらふく食べることができた。鮭は大きくて中々火が通らず、ホイルで包んで、崩さないようひっくり返すのが大変だったが、身がふっくらとしてとてもおいしかった。

(実は、我が家ではこれ以降、コストコの鮭のホイル包み焼きが定番になっている。) 作業に追われることなく、職員も利用者と一緒に楽しむことができた3日間だった。

2020年も、また、プライムハッピーデーが企画されるらしい!?

楽しい企画に乞うご期待!次は参加してみたいかが



## 「プライム HappyDay(1回目)の思い出」

さーくる目標工賃達成指導員 田中 精二

4月30日からのプライムHappyDayの3日間、我がさーくるでは一日目はかみつけの里博物館見学、二日目はすまいる京目でバーベキュー大会、三日目はゲーム大会及びDVD観賞会(『ボヘミアン・ラブソディ』)を行い、好評の内に終わったが、この時ある疑問が私の中で膨らんで頭の中を支配していった。それは「何で屋外で調理する事をバーベキュー(以下BBQ)って言うの?」だった。

BBQと言えばアメリカ人は毎週ご近所集めてやってそうとか、DQNな若者がそこらの河原でやった方がいいが後片付けしない問題とか、1963年に南ベトナム(当時)の独裁政権からの弾圧に対し、僧侶が自らの体に火を放って行った命がけの抗議

を「あんなのは単なる人間BBQよ」と言い放ったおかげで、クーデター起こされ国外追放されただけでなく、それがベトナム戦争の発端となり、しまいには国自体も消滅させた大統領弟夫人マダム・ヌーの世紀の暴



言とか、影響が単なる料理に留まらず文化や政治にまで広がりを見せるものだが、調べてみると元々は西インド諸島の先住民の「肉の丸焼き用の木枠」を指す言葉が「丸焼き」の意味のスペイン語【barbacoa】に転化し、更に英語で【barbecue】になったと言うのが語源、なのはいいが定義としては「薪、炭、豆炭などの弱火によって肉や野菜、魚介類などをじっくり焼く料理、もしくは煙で燻すその調理法や行為を指す」となり、要するに、日本でBBQと言われている屋外で焼けた物をその場で即食べる行為は基本的に「焼き肉（英語で「grill」）」であって「BBQ」ではない、と言う事がわかって疑問が晴れたのが私的には三日間で一番の思い出であった。



## 秋のプライムハッピーデー

さーくるサービス管理責任者 丸山 尚子

今年の10月22日は、天皇即位に伴う「即位礼正殿の儀」で、休日になりましたが、さーくるは、プライムハッピーデー第2弾として開所しました。イオンのフードコートで食事をしたいという希望がたくさんありましたが、休日のイオンはすごく混雑するので混雑を避け、前日の21日（平日）に食事に行くことにしました。

その日、午前中は通常通り作業し、お昼に総勢19人でイオンに出発しました。事前にフードコートにどんなお店があるかネットから打ちだしていたので、みなさんそれを見て何を食べようかしっかり決めていたようです。当日はあまり混んでいなかったのでスムーズに、おそば、じゅうじゅう音をたてているステーキ、博多ラーメン、マクドナルド、ミスタードーナツ、ケンタッキーフライドチキン等、それぞれ思い思いの食べたいものを注文して、おいしそうに食べていました。一人ではなかなかフードコートに行こうと思いませんが、みんなで行けて良かったです。

翌日22日は、12名で「けんちんうどん作りとゲームの日」。うどんは、業務スーパーで冷凍のものを買い、けんちん汁を作りました。みんな

なで大根、人参、ごぼう、里芋、えのきだけ、豚肉を切り、デザートりんごはうさぎに切ってみました。出来上がったけんちんうどんはとてもおいしくて、野菜もたくさん食べられたと思います。オセロと将棋を1日対戦し続けた方、（すごい集中力！）トランプをしたり、「即位礼正殿の儀」を一緒にテレビで見ながら、お雛様のような装束にびっくりする1日でした。

5月のハッピーデーの時も感じましたが、皆さんの顔が仕事の日と違って、とてもやわらかく楽しそうだったので、来年もまたやりたいなあと思います。



自分の好きな具をいれた特製クレープ

## 「松島旅行」

さーくる生活支援員 松本 和子

昨年 10 月 21・22 日に利用者さん 24 名、職員 15 名の総勢 39 名での 1 泊 2 日のプライム合同バス旅行に参加させていただきました。

1 日目は 7 時半に出発し、1 時間おきの休憩を取りながら昼食処の牛タン本舗に到着。「宮城と言ったら牛タン!!」との通り牛タン焼きに牛タンシチュー、牛タンのお吸い物と牛タン三味のお食事を堪能させていただきました。昼食後は集合まで少し時間があつたので、私たちの女子グループはデザートにスイートポテト店へ、美味でした☆

その後再びバスに乗り込みプライム一行は NHK の連続テレビ小説でも話題となったニッカウヰスキー仙台工場宮城峡蒸留所へ。向かうバスの車窓から見えた川は、創業者竹鶴政孝氏があの地を蒸留所にしようと決めた理由の通り水が澄んでいてとても綺麗で、敷地内に入ると恵まれた自然の中に煉瓦造りの工場が立ち並び、バスの降車場所までの道のりでニッカの世界観に入り込める程でした。

予定変更で早めに旅館に着き夕食まで余裕ができたので、松島温泉を堪能したりお土産を選んだりそれぞれのお楽しみを堪能した後はお楽しみの宴会スタート!!  
ここでも松島名産の牡蠣鍋や牛タンに舌鼓。美味しく食べて炊き込みご飯などをおかわりする方も（´▽`\*）  
食後はカラオケまで楽しんできました♪

2 日目はあいにくの雨でしたが、伊達政宗ゆかりの国宝として知られる「瑞巖寺」や東北地方最古の桃山建築「五大堂」を散策。予定よりも早く遊覧船に乗ることができ、264 個あるという島々を眺め、途中アトラクションかと思う程に揺られながら塩釜港へ到着。宮城最後の昼食では、感動的にフカフカの笹かまぼこに出会い、実はかまぼこがあまり得意ではなかった私もおかわりしたいくらい美味しかったです。宮城にお立ち寄りの際は是非ご賞味あれ!

そんなこんなで今回の宮城旅行は、日常なかなか関わりのない施設の利用者さんや職員さんたちともお話が出来たり、皆様のご協力の元、時間にもゆとりのある大満足の大人旅となりました。今回参加されなかった方も、興味のある方は次の機会に是非ご参加ください☆



## 「松島一泊旅行」

すまいる(京目)生活支援員 塚越 幹雄



私は今、NEWS プライムに載せる記事をパソコンで打っています。時は令和元年 12 月 10 日です。記事の依頼をされたのは数日前です。テーマは令和元年 10 月 21 日に行った松島一泊旅行です。2 か月ほど前の事です。私も企画の時点から担当のひとりとして参加させていただきました。いろいろな事がありました。でも 2 か月ほど前の事です。がんばって思い出します。

今回の企画は法人全事業所の希望者で行いました。利用者と職員を合わせて総勢 39 名（利用者 24 名、職員 15 名）の松島一泊旅行です。交通手段は貸し切りバス。朝 7 時 30 分、すまいる（京目）近くの駐車場を出発して一路、松島へと向かいました。最初のイベントは昼食です。「伊達の牛タン本舗」というお店で牛タン料理の松島コースを食べました。牛タンをお目当てに参加した方もいらっしまったくらいです。確かに牛タンは美味しかったです。次に向かったのは「ニッカウヰスキー仙台工場」の工場見学。ウヰスキー工場の見学と言えばウヰスキーの試飲ですよ。私はお酒が大好きです。だがしかし、今回はお仕事で来ております。なので、プライムの参加者は全員ジュースかお茶での試飲となりました。私はお酒が大好きです。きっと私の他にも私と同じようにお酒が好きな方は居たでしょう。私はもう一度ここへ来たいと思っています。いつかきっと必ず。

ウィスキー工場の見学の後は青葉城址へ行く予定でしたが、ウィスキー工場のお土産売場が大混雑して思ったよりも時間を取られてしまい青葉城址は中止となってしまいました。ん～残念。でも、ここで買ったウィスキーを家で飲む楽しみが出来たのでよしとしました。この後目指すは宿泊場所の「松島温泉ホテル壮観」。みんなでゆっくりと温泉につかって疲れを取りました。その後は大広間で宴会形式の夕食。（もちろんお酒はありませんよ。）夕食を食べ終わった後は歌好きが残ってカラオケ大会が始まりました。これも大いに盛り上がりました。二日目はあいにくの雨でしたが、瑞巖寺、五大堂の散策、遊覧船を貸し切ったの松島島巡りをし、最後に「武田の笹かまぼこ工場」で見学、昼食、お買い物をして帰路につきました。一泊二日の旅行でしたが、とても充実した内容で皆さんも楽しめたのではないのでしょうか。一泊旅行の経験がないという理由で参加を悩んでいた利用者さんもいたと聞きました。行こうかやめようか悩んだ結果、参加してくれた利用者さんもいました。でも、帰ってから、みんなが口々に楽しかったと言っているのを聞いて、今回の企画を実行出来て本当に良かったと思いました。また次回も行きたいと言ってくれた人もいました。

普段、私たち支援者と利用者さんとの交流は事業所での作業です。通所や作業を通じて就労支援や自立支援をすることは基本となる大事な仕事です。でも、今回のように一泊という時間を使って行動を共にし、仲間として共に楽しめる行事は、普段気づかない部分も気づくことが出来る大切な支援方法なのではないかと感じました。

さて、次はどこへ行こうかな・・・。



## バスハイク

すまいる(京目)職業指導員 本間 真澄

令和元年9月6日(金)参加者73名バス2台で栃木県へ行きました。天気良く旅行日和でした。

午前は森永製菓小山工場にてキャラメル・チョコボールなど子供のころから親しみあるお菓子の製造工場見学でした。みなさん見た事のない大きさのお菓子の材料や道具や機械の説明を熱心に聞き、帰りには自分や家族へお菓子のお土産をたくさん買いました。

お昼は佐野市へ行き、昼食は個々が好きなものを楽しめるよう佐野ラーメンや佐野名物の大きな餃子、近隣の佐野プレミアムアウトレットで自由行動しながら昼食をいただきました。群馬県にはないお店に足を運び買い物を楽しみました。みなさんの笑顔があふれたバスハイクでした＼(^o^)/

今回行程などを担当しました、初めての担当で分からないことだらけでしたが、支援にも繋がる助言をたくさん頂きとても勉強になりました。



すまいる(柴崎)職業指導員 徳井 聡

2019年9月6日にプライム合同バスハイク旅行が行われました。目的地は森永製菓株式会社小山工場と佐野プレミアムアウトレットです。76名の参加者があり、バス2台で朝8時に出発しました。当日は皆さんのバスハイクにかける思いが届いたのか、晴天に恵まれ絶好のバスハイク日和となりました。9時40分に森永製菓小山工場到着。工場内に入る為にネット帽子をかぶり、サンダルに履き替え、身支度を整えます。準備ができたらいよいよ工場見学の開始です。工場ではチョコボールやキャラメルなどを作る様子を見学することができました。子供の頃に良く食べていたお菓子もあり、とても懐かしい気持ちになりました。工場見学後、お土産のお菓子もいただきました。11時40分に森永製菓小山工場を出発。12時20分に佐野プレミアムアウトレット到着。それぞれグループに分かれてお昼ご飯とお買い物を楽しみました。私のグループはアウトレットから歩いて10分程のお店「手打ち佐野ラーメン佐野屋」で昼食をとりました。シンプルな佐野ラーメンを注文したのですが、醤油ベースのスープに手打ちのちぢれ麺がよくからみ、食が進みます。グループの中には普段食の細かい方もいるのですが、その方も含めて皆さんラーメンを完食されました。ラーメンの他にギョウザも注文しました。そのギョウザは普通のギョウザの2倍くらいある大きなものでお店の方の勧めで塩をつけて食べました。こちらもとても美味しく味もボリュームも大満足でした。その後、アウトレットに戻り買い物をしました。お店の店頭で並べられたステキなバッグを見つけたAさんはそのバッグを買いました。Aさんはそのバッグをとても気に入り、今でも愛用しています。14時30分に佐野プレミアムアウトレットを出発。15時40分にすまいる京目到着。バスハイクに参加した76名全員が無事に行ってきたことが何よりの収穫です。普段作業所では出来ない様々な体験をすることができて良かったと思います。

# 「北海道研修旅行」

地域活動支援センター施設長 信澤 美恵子

社会福祉法人浦河べてるの家。ここが研修先でした。

「べてる」って・・・40年以上の歴史があるということです。

そこには「働く・住む・支える・当事者活動」の4つの柱があり、さらにSSTを大切に、3度の飯よりミーティングと言う。それは問題解決の糸口になるために行うものでも、解決するためでも、メンバーが思っていることや問題を出しあう場でもなく、「お互いを励ましあう場」ということ、「仲間の話を聞くという場」なのだ・・・。作業もおしゃべりしながら楽しくしようと考えているようです。

「カフェぶらぶら」へ行ってランチをいただいた・・・。できたカレーライスはカラフルな夏野菜がのっていて、おもわず「ウォ！」食べてみたら「おいしい！！」メンバーの人たちは接客に追われ、食事をはこび、私たちに配膳をしてくださいました。また、お店の中は「べてるグッズ」なる商品は手作りのものを見ていて楽しく、ついついあれこれと買いこんでしまったほど・・・。

次に「ニューべてる」へ見学に行きましたが、休憩時間で作業の様子が見られず残念！！思ったより人が多く、作業する場所もいろいろありました。いちごの作業は見てみたかったです。

最後に「べてるの家」は個々に合った生活スタイルができる場所なのだ、そしてなにより生きていると思えるところなんだと感じました。



## 浦河べてるの家

すまいる(柴崎)職業指導員 徳井 聡

べてるの家の施設見学をして、まず驚かされたのは、当事者の方々が主体となって施設を案内してくれたことだ。職員が流暢に説明するよりも、当事者がつかえながらも自分の体験を踏まえて話してくれる言葉に説得力があった。私は統合失調症を抱えていてプライムで働いて3年目になるが、べてるの家を見学して考えることが多かった。べてるには「安心してサボれる職場づくり」という理念がある。安心してサボるためにしなくてはならないことが「弱さの情報公開」だ。「調子が悪いので助けてほしい。代わってほしい。」と周りの人に伝えることが重要になってくる。自分の弱さを公開しないとイケない。この時の伝え方の練習も必要だ。このことは私が仕事をしていく上でも当てはまることで大切なことだ。私が仕事をして調子よくない時、特に土日休み明けの月曜日に身体が重くてなかなか動けない時がある。そのような時でも現状では「調子が良くないので助けてほしい。」と言い出せない自分がある。自分の弱さを公開することは本当に難しい。自分の「弱さ」を知ること大切である。そのために当事者研究がある。当事者研究とは誰しもが持っている生きにくさを仲間と共に共有することにより、研究というアプローチから深めていくものだ。私が生きていく上で様々な視点を提供してくれた「べてる」に感謝したい。

# 「北海道研修旅行」

すまいる目標工賃達成指導員 岡本 幸子

6月末にプライムの職員が北海道へ研修旅行に行ってきました。

1日目は幸福の駅、福祉ショップ「べてるの家」に行き、宿泊先では十勝温泉を楽しみました。幸福の駅は廃線になった旧国鉄の駅です。今は観光化され「恋人の聖地」と認定されています。野生のエゾリスがいました。研修先の「べてるの家」では、利用者さん達が働くカフェでカレーランチをいただきました。その後皆さん(利用者)の日常や病気との関わり方、仕事について等お話を聞きました。生き生きと仕事をしています。この時期べてるの皆さんは7月20日にある「べてるまつり」をたのしみにされていました。

2日目は富良野ファーム富田へ行き、次に旭山動物園へ行きました。

富良野ファームのラベンダー畑はグラデーションがきれいです。花人の畑はキンギョソウが見頃でした。カットメロンが売られていてとても甘くみずみずしく美味でした。旭山動物園は行動展示で有名になりました。行動展示とは動物たちの自然な動きを引き出すような展示の工夫がされていて動物のストレス減少にもなっています。ペンギンが水中を飛んでいるように力強くおよびています。しかしこの日は、白くまのダイナミックな飛び込みは、披露されず残念でした。

3日目は小樽へ行きました。有名な小樽運河沿いは歴史的建造物、石造倉庫が並





## ……ようこそ♥プライムへ……



・・日替わりお弁当・・  
注文・配達承ります

すまいる京目弁当事業部

注文専用ダイヤル

027(350)1555

- 10月21日 共同生活援助として：古賀さん（福岡県糸島市）  
カサ・セレゾを開所する前に、管理者の野崎が1週間実習させていただいたグループホームとしての職員さんがはるばる遊びに来てくださいました。
- 11月21日 Sekolah Islam Plus Daarul Jannah(Bogor)



幼稚園～中学までの私立学校

ホームページ：<http://daaruljannah.com/>

Vera Rina Dewi先生(中学校の校長先生)・Nur Kholis Dawam先生(小学校の校長先生)はじめ総勢8名の方が(有)アクアポット韓真希さんと一緒においでになりました。

インドネシアには、日本のような福祉教育やサービスがまだ整備されていないようで、彼らの経営する Sekolah Islam Plus Daarul Jannah では、公立や国立で受け入れが困難な子供たちを毎年、人数枠を設けて受け入れをされているそうです。

今回の来日で、大人の福祉サービスとして当法人を、他にも、児童発達支援事業所や特別支援学校、特別支援学級を見学され、母国の教育や福祉に役立てたいと熱心に見学されていました。



ボゴール(Bogor)はインドネシア西ジャワ州の都市でジャカルタの南に位置します。来日された先生方は敬虔なイスラム教徒で食事制限(ハラール)があるために、昼食は、豚肉やお酒を含まないものを提供しました。彼らと話をする中で考えさせられた違いがあります。それはインドネシアの平均寿命が67～8歳、日本より20年近く短いということ。彼らは明るく話してくれましたものの、少し複雑な思いで、心に引っかかっています。機会があったら、みんなで行ってみたいですね。

### 編集後記



2018年2月21日、社会福祉法人ブローニュの森(佐野市)の小池氏から誘っていただき栃木県小山市にて栃精支協研修会に参加、きょうされんが作った映画「夜明け前」の鑑賞してきた。東京帝国大学医科大学教授：呉秀三(『わが邦十何万の精神病患者は実にこの病を受けたるの不幸の他に、この邦に生まれたるの不幸を重ねるものというべし』)が100年前に精神医療と戦った映画でした。(2019年のNEWSプライムに特集記事を掲載)

この映画の中にベルギーヘル(Geel)の聖ディンブナ教会なるものがでてきた。精神医療の先進地として有名なのはイタリアのトリエステ(精神障害がある人を支えるの地域と考え、脱病院・脱施設化)だが、ベルギーヘル(Geel)の話はもっと歴史をさかのぼるものだった。教会を中心にコミュニティができ、精神科病院の入院患者が病院の外に働きに行っていたというもので、世界各国から訪れる人が多いようだ。(数年前に日本の精神科病院協会もここで研修している。)私の中に急に「そこに行きたい」という強い思いが湧き、10月25日から少し長いお休みをいただいて行って来た。

首都ブリュッセルから北東へ1時間半ほどの穏やかな田舎町、視察をしたわけでもなく、ただただ行ってみただけ。以前に代々木病院の伊勢田堯医師の日本の脱病院化について「ベルギーの構造は日本(民間病院が多い)と似ている、ベルギーになれば脱病院化が可能。」という講演を聞いたことがあり、それも相まって憧れをいただいていたようです。(観光がメインでしたが……)とはいえ、先に立ち寄ったデンマークとともに「良くも悪くも」日本との違い感じる旅であったことは確かです。(Y)



社会福祉法人 プライム  
〒370-0011  
群馬県高崎市京目町201-2  
障害福祉サービス事業所  
すまいる(京目)内  
TEL 027-381-6171  
FAX 027-381-6172  
E-mail  
[smile-kyome@major.ocn.ne.jp](mailto:smile-kyome@major.ocn.ne.jp)  
発行責任者 山本美紀子  
発行日 令和2年1月1日